

2026年度 入試説明会資料



生徒と共に…未来に挑戦！

江戸川学園取手高等学校

目 次

○高等部入学試験問題の出題傾向と特色	P. 1～5
○入学試験Q & A	P. 6～11
○2026年度高等部入試結果	P. 12～13
○入試説明会日程	P. 14



高等部入学試験問題の出題傾向と特色

【英語】

〈問題構成〉

毎年問題構成は、大まかに、**①・②**リスニング問題、**③**文法問題や正誤問題等、**④・⑤**長文読解問題、**⑥**（及び**⑦**）英作文という構成になっています。

①・②のリスニング問題は、選択式、記述式の出題で、昨年度の配点は合計で16点でした。モノローグ、または、ダイアログ形式で文章が読まれた後、内容を確認する問題となります。昨年度は、英語の会話、授業やスピーチ、プレゼンテーションなどを聞いて、それに続く質問に対する答えとして、選択肢の中から適切なものを選ぶもの、英語の会話を聞いて、英語の質問に対する答えを完成させる問題（記述式）でした。英語の文章、質問共に2回放送されます。放送を聞きながら、メモをとってもかまいません。

文法問題は通常10問で、全て選択式問題となっています。毎年同様の形式で出題されます。語彙問題や正誤問題は5～10問となっています。正誤問題は、基本的には選択式で、与えられている文が文法的に正しいかどうかを見極める力が問われます。語彙問題に関しては、毎年同じ出題傾向ではなく、派生語を問われる場合や、短い英文の中で文脈上最適な語を当てはめる場合などがあります。長文読解問題は、選択式問題と記述式問題で構成されています。年度によってジャンルはさまざま、語彙問題、抜き出し問題、内容理解問題、語句整序問題など、出題内容は多岐に渡ります。文章の流れを素早く読み取る内容理解力や、語彙力なども問われます。英作文問題は、単純な和文英訳形式や、自分自身のことを答える形式、絵・グラフ・図などを見て状況を把握する形式などさまざまです。記述式で、語句指定や語数指定がされている場合もあります。

〈出題傾向と対策〉

リスニング問題の対策については、普段から英語を聞き、音読をする学習を行いましょう。話の流れを追いつながりながら英語の文章を読むことも対策になるでしょう。会話がどんな状況で行われているのか、誰が話しているのか、どこで話しているのかなど、流れを追いつながりながら聞くことが大切です。内容を聞いて、正しい英語を書く問題は、過去問題を解くことが対策となるでしょう。

文法問題や語彙問題、正誤問題は、中学既習分野だけではなく、高校初級レベルの文法問題まで出題されます。例えば、5文型、関係代名詞と関係副詞、可算名詞と不可算名詞、代名詞、動名詞、助動詞、前置詞、接続詞など、幅広い文法分野からの出題となっていますので、高校初級レベルの文法問題にまで学習範囲を広げ、数多くの問題演習を行っておくことが望まれます。ただ暗記するのではなく、なぜこの答えに導かれるのかということをしつかりと意識して、問われていることを自分で分類できることが大切です。

長文読解問題は、設問形式は毎年さまざまですが、英文全体の流れを把握できているかどうかを問うものが中心となっています。いかに速く正確に内容を把握できるかが鍵です。問題形式は、選択式問題を多く含みます。中には語彙問題・和訳問題・要約問題を含む場合もあります。また、全体の流れの中で、語彙を連想させる問題などが出題される場合もあります。内容一致の問題は何らかの形で出題されますが、ほとんどが選択式の問題となっています。対策としては、教科書レベルの英文を速読速解できるように、数多くの長文問題に取り組んでおくことが望まれます。そして、長文で出てくる単語のさらに深い意味を知っておくことが語彙力強化と速読力強化につながります。

英作文問題は、基本的な英文を正しく綴ることができているかを測る問題となっています。出題される日本語は、日常的な表現が多く、分野としては、中学校で既習のものがほとんどです。

時制、関係詞、比較、現在完了、助動詞、疑問文などといった文法事項が問われます。対策としては、基本的な英文でよいので、文法問題の学習で目に触れた英文を何度も書いて覚え、暗唱できるくらいにまでに自分のものとする学習姿勢が大切です。また自由英作文問題の対策としては、身近なことを簡単に正確な英語で表現し記述する習慣をつけておくことが大切です。いろんなテーマで書く練習をしておいてください。

〈本校が求める力〉

第一に「正確な知識」です。例えば4択式の文法問題では選択肢を1つに絞れるようにしましょう。そのためには知識が曖昧ではいけません。確固たる根拠をもって解答を1つに絞れるような正確な知識を身に付けられるように努力してください。

次に「2つの読解力」です。1つ目は長文全体の内容を把握する読解力であり、2つ目は、理屈から攻めて一文一文を正確に訳すことのできる読解力です。両方の力を身に付けられるよう訓練を積んでください。

そして「表現力」です。英語の試験ですから、英語を正しく綴ることは当然ですが、日本語も適切にそしゃくし、表現することができなくてはなりません。正しい日本語、正しい漢字を使って表現できるよう日頃から意識して取り組んでほしいと思います。

【数学】

＜問題構成＞

大問を5題出題します。

大問1は、小問集合で6～9題程度の出題となります。ここでは、基本問題を中心としていますが、計算力が必要な問題も出題されています。また、公式の丸暗記をしているだけでは間違いやすい問題も意図的に出題しています。問題の内容を正確に読み取り、素早く正確に計算する力が求められます。

大問2、3、4では、標準から発展的な内容の問題まで幅広く出題され、記述問題も含まれています。したがって、普段の学習においても途中過程をしっかりと書く訓練を積んでおきましょう。「答えがあってればそれで良い」という学習法を見直していくことが必要です。

大問5は、思考力を問う問題が出題されます。

＜出題傾向＞

出題傾向に関しては、以下のように分野に偏りなく、中学3年間の総合力を評価します。

- | | |
|-------|-------|
| ①式と計算 | ②方程式 |
| ③関数 | ④平面図形 |
| ⑤空間図形 | ⑥その他 |

大問1は例年これらの様々な分野から出題されています。大問1で出題される基本問題を確実に得点することが合格につながってきますので、苦手分野をつくらないことが大切です。

一方、問2、3、4において、前半部分は基礎的な問題となっている場合があります。もちろん、決して簡単な計算だけで答えが得られるというのではなく、効率よく計算しなくてはスムーズに答えを得られない問題もあるので注意してください。また、誘導形式の出題となっている場合があるので、後半の難易度の高い問題でも前半部分の内容をヒントにしながら解いていけば、完答できる可能性が広がるでしょう。大問5に関しては、思考力を問う問題であり、文章量が長くても諦めずに必要な情報を読み取ることができれば、十分に対応できる問題です。

＜本校の求める力＞

本校の求める「数学力」は、「基礎力」と「思考力」です。

まず、「基礎力」をアップさせるには、中学校の教科書の章末問題レベルの演習を数多くこなす必要があります。そこで学んだ典型的な解法を組み合わせることで解く問題もあるので、様々な類題演習をこなす必要があります。また、日頃の学習において、最後まで計算をやりつくす習慣を身につけることが大切です。本校で過去に出題された問題等を参考にして、高校入試で頻出の解法を使いこなせるようにしておきましょう。

また、本校の問題では誘導にしたがって解く形式のものもあるので、前半の問題の意図をとらえて、後半の問題を解く習慣を身につけましょう。これは「思考力」を適用した一つの例です。こうした「思考力」を「セ

ンス」と考える人がいますが、決してそうではありません。「思考力」は豊富な演習量によって身につくものです。様々なタイプの問題演習をこなすことで、しっかりと「思考力」が身につくことを忘れないでください。これらの「計算力」と「思考力」は互いに補う関係にあり、「数学力」の屋台を支える両輪といえます。「基礎的な計算力」は豊かな発想を生み、一方「柔軟な思考力」は解答へ通じる最短の道筋を与えてくれます。

最後に、これらの力を備えた総合的な「数学力」を身につけるためには、過不足なく論理的にしっかりと説明する「記述力」が不可欠です。答えだけではなく、教科書や問題集の模範解答を丹念に読み、それらをしっかりと理解した上で、今度は自分の力で工夫した形で解答を作成するといった学習習慣を身につけましょう。これが「記述力」そして「数学力」につながってきます。総合的な「数学力」を身につけて入試に臨むことを期待します。

【国語】

〈国語科指導の特色〉

本校の高等部国語科では、大学入試を見据え、「茨城県初の小中高12ヶ年一貫教育」の特色を生かし、総合的な国語力を培うことを目的として指導しています。国語は全ての教科の基本となる「読解力」・「表現力」・「思考力」を養成することができる教科です。本校では、単に知識を詰め込むだけではなく、「主体的な学び」を重視し、他者の考えを客観的に理解する「読解力」、自分の考えを適切に相手に伝える「表現力」、自分で問題を発見できる「思考力」の3つの力の養成を目的にしています。同時に新しい教育の流れを意識的に取り入れるようにしています。一つ一つの文章表現を丁寧に扱い、上記3つの力を深く掘り下げていくことを目標としています。

国語の総合的な力は、学校の授業はもちろんですが、普段の言語環境も、その育成に大きな影響を与えます。日頃、書籍や新聞などを読む習慣を持っていると、高度な読解力と思考力が定着しやすくなります。そのために、本校の国語科では読書指導に力を入れています。また、ポートフォリオの蓄積を意識した、外部の諸活動への参加を積極的に働きかけています。

〈入試問題の出題傾向ならびに対策〉

大問は評論・小説（随筆）・古文の三題。

①評論は論理的思考力を問う問題が中心となります。具体的には、段落のポイントや文章全体の論理展開を問う問題です。語彙力の確認として、漢字の問題（書き取りと読み）も出題します。評論は、受験生にとって比較的長めに感じる文章を出題します。本校の過去問に取り組むことで、時間内に解く練習をする必要があります。文章を読む際は、段落のポイント、段落相互の関係、文章の主旨を考えながら読む習慣を身につけてください。提示された具体例が、筆者のどのような考えを伝えるためのものなのかを把握することも大切です。また、漢字についての出題もありますので、漢字の問題集を一冊完璧に仕上げておくといでしょう。

②小説や随筆の読解において最も重要なことは登場人物や筆者の心情を把握することです。本校の小説・随筆の問題では心情をとらえる問題を出題します。心情を的確に読み取る力は、細やかな観察力や共感力に支えられたものであり、それは、人として大切なものだからです。小説・随筆の読解では、「場の設定」の把握が必要となります。ここでの「場の設定」とは、登場人物の特徴、置かれている状況のことです。「場の設定」の論理の中で話は展開している、と信じて読み進めることが大切です。また、登場人物や筆者の心情を把握するためには、会話の内容や行動が手掛かりとなります。心情把握問題では、必ず答えの根拠を見つけて解答しましょう。

③古文の問題では、中学校で学習する古文の内容に基づく基本的な問題を出題します。毎年出題される設問の例としては、歴史的仮名遣い・係り結びの法則などの知識を問う問題があります。さらに、登場人

物の心情や作品の主題を問う読解問題も出題します。したがって、古文に関しては、中学校で学習する知識を整理しておいてください。内容把握の問題も出題しますので、過去問を解いて傾向に慣れることも大切です。

【理科】

〈本校理科のアドミSSION・ポリシー〉

本校理科においては「自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。」という目標に沿って高等部の学習指導が実践されています。理科（自然科学）とは、生物と環境、物質とエネルギー、地球と宇宙など、私たちをとりまく自然の謎を解き明かし、人類の英知を高めると同時に、広く社会の進歩に貢献することを目指す学問です。そのような目的を達成するためにも、本校理科としては次のような人の入学を求めています。

- ・自然界の不思議に関心を持ち、それらを解明したいと思っている人
- ・理科（自然科学）に魅力を感じ、もっと学びたいと思っている人
- ・理科（自然科学）を勉強し、社会の様々な分野で貢献したいと思っている人

〈出題の目的〉

上記のアドミSSION・ポリシーの内容を確認するため、「正確な知識」「実験・観察・観測を通して文章や表、グラフから科学現象を考察する力」「科学的な思考力」「計算力」など、自然科学を多角的に考えることができる力を身に付けているかを判断する作問を行っています。

〈問題構成〉

計算問題、文章による記述問題、作図やグラフの記入などです。実験・観察・観測を通して、文章や表、グラフから科学現象を読解する力や、科学的な思考力、計算力をみる問題を出題します。

試験時間は40分、得点は50点満点となります。

〈求める力・学習における注意点〉

学習方法で大切なことは、断片的な知識の暗記だけではなく、さまざまな現象について「なぜだろう？」「どうして？」という気持ちを持ち続けながら、その疑問を解決していくことです。既存の知識を元に正しく論理立てて考え、疑問を解決していくような力をつけてください。また、正しく早く解ける計算力もつけるよう心がけてください。より思考力を試す問題となっています。各分野の難易度が高い問題にチャレンジして学習してほしいと思います。

【社会】

社会科の入試問題は、地理・歴史・公民の3つの分野から広く出題します。全体としては、30問程度の出題数となる予定です。分野別に見ると、歴史分野からやや多めに出現しており、次いで地理分野、公民分野の順で問題数が多くなっています。

近年は、基礎的な知識・情報の理解を確認する問題だけでなく、これまでに身に付けた知識や情報を整理・分析したり、身の回りに存在する様々な社会課題について考察したりする問いの出題を増やしています。例えば、過去の入試では、雨温図や地形図から気候や地形の特徴について抽出したり、風刺画と歴史的な事象を関連付けて考察したりする問いを出題しました。この背景には、変化の激しい時代を生き抜く資質・能力を備えた「心豊かなリーダー」としての《ポテンシャル》を測りたいという本校社会科の思いが込められています。このような資質・能力は、教育改革・大学入試改革の進展に伴って大きく注目されていますが、【学校】や【入試】といった枠に囚われることなく、広く受験生の皆さんに身に付けて欲しいと考えています。

そのような観点から、既存の知識や情報を組み合わせて論理的に思考する力、そして、自らの意見や考えを筋道立てて表現する力などを測るために、記述・論述問題やテーマ文読解に関する問いを出題する予定です。さらに、山積する課題を「ジブンゴト」と捉え、その解決に向けて前向きに行動を起こして欲しいという願いから、例年現代社会や時事問題に関する問いを出題しています。

また、漢字で解答することを求める問いを毎年必ず出題しています。それは、基本的な語句を正しく覚えることが、１つ１つの事柄の本質を理解するファーストステップであると考えているためです。従って、漢字指定の問題については、誤字や「かな」での解答は得点に結び付きません。日頃から「漢字で書けるものは漢字で書く」習慣を身につけるように心がけてください。

江戸川学園取手高等学校 Q & A

【学校見学に関して】

Q 1：受験該当学年ではないのですが、校風や学校生活を知る機会はありませんか？

A：通常の学校見学はもちろん、文化祭・オープンスクールを始め、個別相談会や入試説明会などにもぜひご来校ください。個別に校舎の案内等をご希望の場合は、入試担当に電話やメールでお問い合わせください。

Q 2：体育祭や文化祭を見ることはできますか？

A：体育祭については、一般の方の見学はできません。文化祭は10月11日（土）、12日（日）に実施予定です。事前予約制で一般の方も見学することができます。文化祭と並行して個別相談も行っておりますので、お気軽にお越しください。

【学校生活に関して】

Q 1：通学手段を教えてください。

A：以下の通りです。

- ①自宅から徒歩・自転車・自家用車
- ②守谷駅西口から江戸川学園正門まで路線バス（関東鉄道）・約20分
- ③取手駅西口から江戸川学園まで路線バス（関東鉄道）・約10分
- ④取手駅西口から徒歩・約25分

Q 2：始業時刻と終業時刻を教えてください。

A：始業時刻は8：30です。6校時終了時刻は14：45、7校時終了時刻は15：40です。延長申請がない場合の最終下校時刻は18：00です（水曜日は17：00、土曜日は15：30です）。

Q 3：土曜日に授業はありますか？

A：土曜日は基本的に隔週で45分×4コマ授業を行います。

Q 4：昼食は毎日お弁当を持たせなければいけないでしょうか？

A：校内には、食堂がございます。朝7：30から夕方まで営業しています。朝はおにぎりやパンなどの軽食、昼食時はパン・弁当・軽食・定食、夕食時は軽食・定食などを購入することができます。コミュニティホールというカフェテリアがあり、食堂で購入したものはそこで自由に食べることができます。また、軽食・飲料の自販機もあり、休み時間等に購入ができます。

Q 5：携帯電話は持ち込めますか？

A：持ち込めます。校内では電源を切って、個人用鍵付きロッカーで自己管理します。

Q 6：各教科の年間指導計画はありますか？

A：各科目の学習内容が中学1年から高校3年までまとめられているシラバスがございます。

Q 7：習熟度別授業はありますか？

A：一部のコース・授業で行っています。2025年度は、高校1年～高校3年医科コースの数学と、高校3年医科コースの英語において習熟度別授業を行っています。

Q 8：課外授業はありますか？

A：ございます。「アフタースクール」という名称で、年間150を越える講座を用意しており、受講は任意選択制です。内容は5教科に関連するものから教養を深める内容のものまで幅広く扱っています。

Q 9：スクールカウンセラーはいますか？

A：専門の臨床心理士が週3日学校に待機し、生徒の心身のケアに努めています。

Q 10：学校案内や入学試験要項を手に入れるにはどうすればいいですか？

A：入試説明会やオープンスクール、文化祭等で配布いたします。また、デジタル版についてはホームページ上で閲覧・ダウンロードが可能です。

Q 11：緊急時の対応について教えてください。

A：本校では一斉配信メールシステムを導入しており、緊急時や各行事等のお知らせを保護者へのメール配信によって行っております。なお、災害などの際に、万が一校舎内に宿泊することになった場合でも、十分な食料・飲料水・毛布などが備蓄されておりますのでご安心ください。

Q 12：部活動と学習の両立は可能ですか？

A：本校には、運動部が18団体、文化部が8団体、同好会が17団体あり、7割以上の生徒たちが参加しています。仲間と切磋琢磨することが、学業にも大いに活かされており、部活動に熱心に取り組む生徒ほどしっかりと学習することができています。

Q 13：入学納入金と学費以外でかかる費用について教えてください。

A：3年間にかかる主な費用については昨年度の実績をご参考にしてください。

(令和6年度実績)

- ・学校規定品 (制服一式・カバン・体育着・シューズなど必需品一式)
約200,000円
- ・Classi 使用料 (3年間分)
約 12,000円
- ・オーディトリウムイベント費 (3年間分)
約 24,000円
- ・日本スポーツ振興センター会費 (3年間分)
5,256円
- ・1年次研修旅行費 (2泊3日) ※福島県
約 57,000円
- ・2年次修学旅行費 (3泊5日) ※シンガポール
約350,000円
- ・教材費
高1：約48,000円
高2：約26,000円
高3：約25,000円
※学年、コース、選択科目等によって変動します。
- ・模試費
高1： 14,800円
高2： 18,900円
高3： 30,700円～44,650円
※学年、コースによって変動します。
- ・アフタースクール費用：1コマ450円 (1講座半年分で4,000円程度)
※アフタースクールの受講は任意選択制となります。

【入学後のクラス編成について】

Q 1：入学後のクラス編成はどうなりますか？

A：原則コース別にクラスを編成しますが、医科・東大コースに関しては、医科・東大合同クラスの編成を原則とします。ただし、一部の授業や活動は医科コースの生徒と東大コースの生徒は分かれて実施いたします。

Q 2：内部進学生（中入生）と高校入学生（高入生）は、同じクラスになりますか？

A：全コースにおいて、1年次は中入生と高入生は分けてクラス編成を行います。合流時期は学年の実情に応じて判断いたします。現高校2年は、文系のみ中入生と高入生の混合クラスです。

Q 3：入学後に在籍コースを変更することは可能ですか？

A：高校2年、または高校3年の進級時に、本人の希望や成績をもとに在籍コースの変更が生じる可能性がございます。なお、医科・東大コースにおいては希望者の人数次第では成績による選抜を行いますので、希望が叶わない場合もございます。

Q 4：理系・文系にはいつ分かれ、その比率はどのくらいですか？

A：高校2年進級時に分かれます。2025年度における理系と文系の比率は、だいたい6：4です。

【出願に関して】

Q 1：入学試験要項のデジタル版はありますか？

A：ございます。6月上旬より本校ホームページ上でデジタル版の閲覧・ダウンロードが可能です。

Q 2：インターネットでの出願はいつからですか？

A：11月1日から出願が可能です。出願を済ませましたら、調査書のみを郵送してください。アドミッション方式（A）の申請書類受付は10月1日から可能です。詳細は入試担当にお問い合わせください。

Q 3：一般入試は2回とも受験できますか？

A：できます。第1回入試が1月15日、第2回入試は1月21日です。第1回入試の合格発表後に第2回入試の出願をすることも可能ですが、第1回入試の出願時に第2回入試も同時に出願した方が受験料はお安くなります。

Q 4：出願時に使用する調査書はどのような様式を使用すれば良いですか？

A：調査書は、各都道府県公立高校提出用の様式もしくは茨城県私学協会標準様式をご利用ください。

【入試当日に関して】

Q 1：入試当日は車でいきたいのですが、駐車場はありますか？

A：ございます。入試日が近づきましたらホームページに詳細を掲載いたしますのでご確認ください。当日の天候等によっては渋滞が発生する場合がございます。できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

Q 2：試験会場には何時から入場できますか。保護者の控え室はありますか？

A：試験会場には午前7時15分から入場できます。保護者控え室も午前7時15分からご利用いただけます。ただし、試験終了まで受験生と会うことはできません。受験生への緊急連絡は入試本部までお願いいたします。

Q 3：遅刻した場合は受験はできませんか？

A：試験開始は8時45分ですが、9時までの遅刻は受験を認めます。ただし、試験は残り時間での実施とします（試験時間の延長はありません）。

Q 4：降雪などの対応はどうなりますか？

A：降雪などによる電車バスの遅れによる遅刻の場合は、遅刻としません。降雪などの状況によっては、試験の開始時間を遅らせて実施する場合もございますのでご注意ください。降雪時の入試情報は、試験当日にホームページに掲載します。

Q 5：保健室受験はできますか？

A：試験中に具合が悪くなった場合に限り保健室受験を認めております。その場合は試験監督者に申し出てください。入試当日に体温が高い場合（37.5℃以上）や具合が悪い場合、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染に伴い出席停止期間中の場合は受験をお控えください。

Q 6：入試当日は、携行品として何が必要ですか？

A：以下の通りです。

- ①受験票（カラー印刷）
 - ②上履き
 - ③筆記用具
 - ④腕時計（試験会場に時計はございません）
 - ⑤昼食
- （5教科型受験生は全員、3教科型受験生はアドミッション方式Aのみ）

Q 7：受験票を忘れたらどうすればいいですか？

A：入試本部で受験票を発行いたしますので近くの教職員にお申し出ください。

Q 8：入試日の前日、もしくは当日の朝、地震等の不測の事態が発生した場合の対応はどうなりますか？

A：本校のホームページ上に対処策を掲載いたしますのでご確認ください。

Q 9：追試験はありますか？

A：ございません。本校では入試を2回設定しておりますので、追試験は行いません。特にアドミッション方式の受験生におかれましては、予め2回とも（同時）出願されることをおすすめします。

【アドミッション方式に関して】

Q 1：アドミッション方式とはどのような入試制度ですか？

A：一般方式よりも優遇措置の大きな自己推薦型の単願入試制度です。アドミッション方式には評定等の基準がある（A）と基準のない（B）があります。（A）は（B）よりも優遇度が高く、入試当日の成績に加え、面接の評価や中学校の学業成績、ポートフォリオも重視し、総合的に合否判定を行います。本校は、「心豊かなリーダーの育成」を教育理念として、国際社会に貢献できる有為な人材の育成に取り組んでいます。具体的には、「規律ある進学校」として、心力・学力・体力のバランスのとれた三位一体の教育を目指しています。アドミッション方式で入学を希望される受験生のみなさんは、この趣旨を理解した上で受験されることを望みます。

Q 2：アドミッション方式（A）で出願したいのですが、どうすればよいですか？

A：本校の入試説明会等に参加し、個別相談にてお申し出ください。また、担任の先生にその旨をお伝えください。入試担当が中学校の先生に詳細をご説明いたします。その後、必要書類を準備していただきます。詳細は入試担当にお問い合わせください。

Q 3：アドミッション方式で不合格だった場合、再度一般入試を第一志望で受験できるとありますが、その場合の出願手続はどうすればいいのでしょうか？

A：既に第2回入試の出願が済んでいる場合、新たな出願手続は不要です。まだの場合は出願期間内に第2回入試の出願手続をインターネットで済ませてください。

Q 4：アドミッション方式（A）を希望していますが基準を満たしていません。その場合は一般方式しかありませんか？

A：アドミッション方式（B）、もしくは一般方式で出願してください。アドミッション方式（B）は一般方式よりも合否判定を優遇します。

Q 5：アドミッション方式で難関大コースに合格後、第2回入試で医科・東大コースにチャレンジしたいのですが可能ですか？

A：可能です。難関大コースの入学手続を済ませてから第2回入試の出願手続をインターネットで行ってください。既に第2回入試の出願が済んでいる場合、新たな出願手続は不要です。なお、第2回入試で医科・東大コースに合格すれば、入学コースは医科・東大コースに自動的に更新されます。

Q 6：アドミッション方式で医科・東大コースから難関大コースへのスライド合格になった場合、再度第2回入試で医科・東大コースにチャレンジできますか？

A：できます。第2回入試の出願手続をインターネットで行ってください。既に第2回入試の出願が済んでいる場合、新たな出願手続は不要です。

Q 7：アドミッション方式で医科・東大コースが第一志望であり、難関大コースへのスライド合格の場合は入学を辞退したいのですが可能ですか？

A：アドミッション方式（A）で出願し、スライド合格した受験生のみ辞退可能です。アドミッション方式（B）で出願した受験生は、合格コースへの入学義務がありますので、辞退はできません。ただし、第2回入試で医科・東大コースに合格すれば、入学コースは医科・東大コースに自動的に更新されます。

Q 8：アドミッション方式（A）と（B）、また、アドミッション方式の難関大と難関大特色において、入学後のクラス編成に差は生じますか？

A：入学後のクラス編成に差は生じませんのでご安心ください。

【帰国生優遇制度に関して】

Q 1：帰国生優遇制度はどんな内容になりますか？

A：すべての入試（方式）において、出願時に「帰国生カード」（本校ホームページ上でダウンロード可）をご提出いただくと、当日の試験において、英語の得点率の20%を（四捨五入して）加算点とします。

Q 2：帰国生優遇制度の資格は何ですか？

A：資格は、以下の両方です。

- ①2010年4月2日～2011年4月1日に生まれた者
- ②海外の学校に通算1年以上在籍し、帰国後3年以内であること

Q 3：海外から出願する場合、調査書は現地校の書式で構いませんか？

A：アドミッション方式（B）、一般方式で受験する場合は現地校が発行する書類に代替していただいて結構です。ただし、3年間の履修科目の成績が記載されたものに限りです。アドミッション方式（A）での受験を希望される場合は、入試担当にご連絡ください。

【その他入試全般に関して】

Q 1：1回入試で5教科型と3教科型は併用はできますか？

A：できません。出願時にどちらかを選択していただきます。なお、5教科型と3教科型の入試問題（英数国）は共通です。
（アドミッション方式受験生も同じです）

Q 2：第1回入試と第2回入試は、受験型（5教科型と3教科型）や受験コース（医科・東大・難関大）が違っていてもいいですか？

A：問題ございません。ただし、一度出願手続を済ませた後に、受験型や受験コースの変更はできません。

Q 3：英語重視配点とは何ですか？

A：通常配点と比べ英語の配点が高い入試です。また、通常配点とするか英語重視配点とするかは出願時に選択していただきます。一度出願手続を済ませた後に変更はできませんのでご注意ください。なお、入試問題は配点にかかわらず全教科同じです。

【合否判定に関して】

Q 1：教科による足切りはありますか？

A：ございません。

Q 2：合格基準点は何点ですか？

A：学科試験及び調査書等提出書類、面接（アドミッション方式Aのみ実施）における評価を総合的に判断して合否を判定します。なお、本校ホームページで入試結果を公表しておりますので詳細はそちらをご覧ください。

Q 3：男子と女子は、別々に合否判定を行うのでしょうか？

A：男女関係なく合否判定を行います。性別による区別は一切ございません。

Q 4：第1回入試で合格し、手続（入学・延納）を行って、第2回入試もチャレンジして不合格になった場合、第1回入試の合格は取り消しになりますか？

A：第1回入試で手続を完了すれば、仮に第2回入試で不合格になったとしても、入学の権利は保持されていますのでご安心ください。ただし、第1回入試合格後に所定の手続を行わなかった場合は入学の権利は保持されません。

【入学手続及び、延納手続について】

Q 1：ホームページ上で合格が確認できた場合、入学手続はどのようにすればよいのですか？

A：手続の主な流れは、以下の通りです。

- ① 手続期間内に本校ホームページから合格発表サイト、そして入学納入金決済サイトへ進み、入学納入金、または延納金を支払う。
※特待合格者も含む
 - ② 入学決定の場合は、上記サイトより「誓約書」に必要事項を入力する。

入学手続と延納手続の詳細に関しましては、入学試験要項をご覧ください。

Q 2：延納手続とは何ですか？

A：本校の延納手続制度は、入学納入金45万円のうち延納金として5万円を所定の手続期間内に納入していただくことで、残金40万円を併願校の合格発表日の翌々日23：59まで延納することができる制度で、併願合格者のみが対象となります。なお、一旦納入された入学納入金（延納金）は返金いたしません。一度延納手続をした場合、第2回入試での延納金は不要です。

【特待制度に関して】

Q 1：特待制度はすべての入試に適用されますか？

A：すべての入試・方式で適用されます。

Q 2：アドミッション方式で合格したが、特待合格ではなかったため、第2回入試で特待を目指して受験することができますか？

A：可能です。第2回入試の出願手続を手続期間内にインターネットで行ってください。既に第2回入試の出願が済んでいる場合、新たな出願手続は不要です。

Q 3：特待合格の基準は何点ぐらいですか？

A：学科試験及び調査書等提出書類、面接（アドミッション方式Aのみ実施）における評価を総合的に判断し、極めて優秀であると認められた生徒に対し、特待生として合格発表を行います。特待合格の基準は、全体の得点分布によって変動しますが、例年A特待はおよそ9割程度です。B特待はそれよりも若干低い基準ということになります。

Q 4：特待合格となった場合の入学手続はどうなりますか？

A：入学手続期間内に入学手続もしくは延納手続を行うことで、特待入学の権利が保持されます。特待合格で入学した場合、延納手続や入学手続でお支払いいただいた延納金および入学納入金は、入学後6月以降を目途に返金いたします（ただし、振込手数料は差し引かせていただきます）。他校に入学した場合は、延納金の返金はありません。

Q 5：特待生の場合、就学支援金はどうなるのでしょうか？

A：国からの就学支援金（各家庭によりますので文科省のホームページでご確認ください）は、授業料に対しての支援制度ですので、A特待の場合は受給対象になりません。B特待の場合は受給対象となります。

【新入生登校日について】

Q 1：入学前に登校日はありますか？

A：入学前に2回実施する予定です。1回目は3月20日（金祝）、2回目は4月上旬に予定しております。詳細は入学手続の際にご案内いたします。

※障害等があり、受験上の配慮や入学後の修学上の配慮等を必要とする場合、本校では希望する対応が難しいこともあるため、出願を考えている場合には、必ず事前にご相談ください。その他、ご不明な点は高等部入試担当にお問い合わせください。

TEL（学校代表電話）：0297（74）8771
EMail（入試担当直通）：h.admission@e-t.ed.jp

2025 年度高等部第 1 回入試結果

入試結果は、以下の通りとなりました。

- ・応募者数は 368 名（男子 219 名、女子 149 名）、受験者数は 366 名（欠席者 2 名）でした。
- ・特待合格者は、第 1 回入試全体で、A 特待 20 名、B 特待 13 名となります。
- ・一般方式は学科試験と調査書にて総合的に合否判定をおこなっています。
- ・アドミッション方式は学科試験・調査書等・面接にて総合的に合否判定をおこなっています。応募者数は 89 名（男子 52 名、女子 37 名）、受験者数は 89 名（欠席者 0 名）、合格者数はスライド合格を含め 87 名（男子 51 名、女子 36 名）でした。学科試験の結果については公表いたしません。

1. 入試結果一覧（アドミッション方式を除く）

項目	医科・東大コース			難関大コース		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計
応募者数	93	67	160	74	45	119
受験者数	92	67	159	137	92	229 (スライド含)
合格者数	28	20	48	134	84	218 (スライド含)
倍率	3.3			1.1 (スライド含)		

2. 入試成績一覧（アドミッション方式を除く）

- ・各教科配点は全コース共通で、以下のようになります。
- ・3教科入試 合計 400 点（通常型：国語 100 点、数学 150 点、英語 150 点 英語重視型：国語 100 点、数学 100 点、英語 200 点）
- ・5教科入試 合計 400 点（通常型：国語 100 点、数学 100 点、英語 100 点、理科 50 点、社会 50 点 英語重視型：国語 50 点、数学 50 点、英語 200 点、理科 50 点、社会 50 点）
- ・下記の成績は、国語・数学・英語は 100 点満点、理科・社会は 50 点満点に換算しています。

医科・東大コース

項目	国語	数学	英語	理科	社会	合計
受験者平均点	66.7	53.5	72.0	37.2	37.5	267.2
合格者平均点	72.0	67.2	84.9	39.5	40.9	310.8
教科別最高点	92	90	100	46	47	367

合格最低点 288

難関大コース

項目	国語	数学	英語	理科	社会	合計
受験者平均点	63.6	47.8	63.8	34.8	34.5	241.6
合格者平均点	63.9	50.3	65.0	35.2	34.7	247.7
教科別最高点	84	84	94	46	45	329

合格最低点 185

2025 年度高等部第 2 回入試結果

入試結果は、以下の通りとなりました。

- ・応募者数は 208 名（男子 128 名、女子 80 名）、受験者数は 106 名（欠席者 102 名）でした。
- ・特待合格者は、第 2 回入試全体で、A 特待 2 名、B 特待 1 名となります。
- ・一般方式は学科試験と調査書にて総合的に合否判定をおこなっています。

1. 入試結果一覧

項目	医科・東大コース			難関大コース		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計
応募者数	64	47	111	64	33	97
受験者数	36	31	67	42	37	79 (スライド含)
合格者数	16	11	27	40	35	75 (スライド含)
倍率	2.5			1.1 (スライド含)		

2. 入試成績一覧

- ・各教科配点は全コース共通で、以下のようになります。
- ・3教科入試 合計 400 点（通常型：国語 100 点、数学 150 点、英語 150 点 英語重視型：国語 100 点、数学 100 点、英語 200 点）
- ・5教科入試 合計 400 点（通常型：国語 100 点、数学 100 点、英語 100 点、理科 50 点、社会 50 点 英語重視型：国語 50 点、数学 50 点、英語 200 点、理科 50 点、社会 50 点）
- ・下記の成績は、国語・数学・英語は 100 点満点、理科・社会は 50 点満点に換算しています。

医科・東大コース

項目	国語	数学	英語	理科	社会	合計
受験者平均点	72.5	59.9	74.0	35.1	32.9	277.7
合格者平均点	75.4	68.1	84.9	36.3	36.4	309.9
教科別最高点	88	88	96	42	42	337

合格最低点 292

難関大コース

項目	国語	数学	英語	理科	社会	合計
受験者平均点	72.1	50.5	62.8	31.0	31.3	247.6
合格者平均点	73.1	52.3	64.3	31.4	32.0	254.1
教科別最高点	86	76	88	40	41	314

合格最低点 197



高等部入試説明会（江戸川学園取手高等学校）

詳細は本校ホームページでご案内いたします。ホームページ上からお申込みが必要です。

説明会開催日	会 場	時 間
6月15日（日）	八潮メセナアネックス	10時～12時
7月20日（日）	柏の葉カンファレンスセンター	10時～12時
7月27日（日）	つくば国際会議場	10時～12時
8月2日（土）	北千住 シアター1010	10時～12時
10月4日（土）	本校オーデトリウム大ホール（授業・施設見学も可）	9時50分～12時
10月25日（土）	本校オーデトリウム大ホール（施設見学も可）	9時50分～12時
11月29日（土）	本校オーデトリウム大ホール（授業・施設見学も可）	9時50分～12時

塾の先生方対象の説明会 6月19日（木） 10時30分～12時10分

オープンスクール 7月5日（土）

紫峰祭 10月11日（土）・12日（日） ※詳細はホームページでご案内いたします。



本校での説明会（オーデトリウム大ホール）

受験生と保護者の皆様へ

最新の情報は、本校ホームページでご案内いたします。

参加を希望される場合、**本校ホームページよりお申込みが必要です。**

ご質問等ございましたら、下記の入試担当まで、お問い合わせください。

受験生の皆様へ、来春、志望する高等学校で新生活をスタートされますことを心より応援しております。

江戸川学園取手高等学校

電話 0297-74-8771

Email h.admission@e-t.ed.jp

■高等部入試担当

青野・山本・文道・貝森・石塚・石田・古橋・土田



本校 大ホール 1300席

※ご出席の際にはスリッパをご持参ください。



